

# 「里のほほえみ」の

種子大豆生産者の皆さんへ

# べと病・紫斑病の防除を

# 徹底しましょう

アミスター20フロアブルは、  
令和6年産は使用可

種子栽培においては、23年産から隔年使用として  
おります。

**べと病**は病気に罹った莖葉などで伝染します。また、冷涼で雨が多いときに発生します。葉や子実  
に発生が見られ、子実に発生すると被害粒（病害粒）となりますので丁寧な調製等で除去しましょう。

**紫斑病**は病気に罹った莖葉や種子で伝染します。種苗法の指定種苗の生産等に関する基準において  
は、混入してはならないこととなっていることから、防除体系を徹底しましょう。

## 防除等のポイント

### べと病防除（裏面の表1参照）

- 多発したほ場で連作はしない。
- 過繁茂で風通しが悪いと発病しやすいため、密植や  
早播きを避ける。
- 開花10日前～子実肥大期に薬剤防除する。
  - ・開花前に発生した場合は、莖葉に農薬を散布する。
  - ・開花後の早い時期に農薬を散布する。
  - ・発生が拡大する場合は、開花40日後までに追加防除を行う。



べと病（左：葉、右：子実【出典：栃木県農業環境指導センター】）

### 紫斑病防除（裏面の表2参照）

- 多発したほ場では、秋耕を行い罹病した植物残渣を土中に埋める。
- 必ず種子消毒を行う。
- 開花後に必ず薬剤散布を行う。
- 薬剤の散布は最低2回実施する。その際、1回目と2回目は異なるグループ  
（RACコード）の薬剤を使用すること。
- 散布時期は開花15～35日後とし、1回目散布はこの期間の早い時期に行う。
- 収穫後乾燥せずに数日間放置すると、紫斑粒率が増加するので、収穫後は速やかに乾燥すること。



紫斑粒

## 品質向上対策及び品質目標

### 品質向上対策

- 播種適期は6月15日～7月5日。
- プラソイラ等による心土破碎により排水対策を行う。
- ハスモンヨトウ、カメムシ類、マメシンクイガ等の病害虫に注意し適切に防除する。
- 収穫前に青立ち株や雑草を除去する。
- 着色粒や腐敗粒、黒斑粒は特に注意して選別すること。
- しわ粒対策として緩効性窒素の基肥施肥または、開花期以降の窒素追肥による生育後半の栄養状態改善を  
図る。
- しわ粒が多かったり、過乾燥の状態で選別するとはく皮粒が発生しやすいので注意する。

### 品質目標

調製篩い目	7.9mm
篩上の割合	98%
水分	13.0%

**表1** ベと病防除に使用できる主な薬剤（登録内容は令和6年5月15日現在）

農薬名 登録番号	希釈倍率	使用方法	使用時期 回数	成分	RACコード
ランマンフロアブル 20624	1,000～2,000倍	散布(100～300L/10a)	収穫7日前まで 3回以内	シアゾファミド	F：21
アミスター20フロアブル※① 20574	2,000倍	散布(100～300L/10a)	収穫7日前まで 2回以内	アゾキシストロビン	F：11
ベトファイター顆粒水和剤 22397	2,000～3,000倍	散布(100～300L/10a)	収穫7日前まで 2回以内	シモキサニル	F：27
				ベンチアバリカルブイソ プロピル	F：40
フェスティバルC水和剤 19510	600倍	散布(100～300L/10a)	収穫7日前まで 3回以内	ジメトモルフ	F：40
				銅	F：M1
プロボース顆粒水和剤 21954	1,000倍	散布(100～300L/10a)	収穫21日前まで 2回以内	ベンチアバリカルブイソ プロピル	F：40
				TPN	F：M5
リドミルゴールドMZ 22772	500倍	散布(100～300L/10a)	収穫45日前まで 3回以内	マンゼブ	F：M3
				メタラキシルM	F：4
撒粉ホルダー粉剤DL 18370	4kg/10a	散布	—	銅	F：M1

**表2** 紫斑病防除に使用できる主な薬剤（登録内容は令和6年5月15日現在）

農薬名 登録番号	希釈倍率	使用方法※③	使用時期 回数	成分	RACコード
<b>(種子消毒に使用する薬剤)</b>					
クルーザーMAXX 22917	乾燥種子1kg当り 原液8ml	塗沫処理	は種前 1回以内	チアメトキサム	I：4A
				フルジオキシニル	F：12
				メタラキシルM	F：4
ベンレートT水和剤20 20888	乾燥種子重量の 0.2～0.4%	種子粉衣	は種前 1回以内	チラウム	F：M3
キヒゲンR-2フロアブル 20604	乾燥種子1kg当り 原液20ml	塗沫処理	は種前 1回以内	ベノミル	F：1
				チウラム	F：M3
ゲッター水和剤 17697/17698/23366	乾燥種子重量の 0.5%	種子粉衣	は種前 1回以内	ジエトフェンカルブ	F：10
				チオファネートメチル	F：1
<b>(生育期に使用する薬剤)</b>					
アミスター20フロアブル 20574	2,000～3,000倍	散布(100～300L/10a)	収穫7日前まで 2回以内	アゾキシストロビン	F：11
	16～24倍 (液量800ml/10a)	無人航空機			
ファンタジスタ顆粒水和剤 23102/23103	2,000～4,000倍	散布(100～300L/10a)	収穫7日前まで 3回以内	ピリベンカルブ	F：11
サンリット水和剤 20980	1,000～2,000倍	散布(100～300L/10a)	収穫14日前まで 2回以内	シメコナゾール	F：3
トップジンM水和剤 11573	700～1,500倍	散布(100～300L/10a)	収穫14日前まで 4回以内	チオファネートメチル	F：1
Zホルダー 24041	500倍	散布(100～300L/10a)	—	銅	F：M1

※アミスター20フロアブルは、耐性菌が発生しやすいので隔年使用（令和6年産は使用可）なおファンタジスタ顆粒水和剤との同時散布は行わない。（同一年）

※散布と無人航空機が併記された薬剤は両方に登録があるので、希釈倍率を確認して使用すること。

農薬は使用前に、ラベルをよく読み、使用方法・使用時期・使用回数等を確認し、正しく使用しましょう。

## 大豆子実の病害虫防除の徹底に努めましょう

※防除方法等は「栃木県農作物等病害虫雑草防除指針」及び「優良種子生産の手引き(大豆)」を参照ください。